Report

地区大会報告



地区大会を終えて

前日の午後より降っていた雨が、11月3日の明け方には上がり、先ずはお天気に感謝して地区大会当日を迎えた。空は薄曇り。いつものように早朝散歩をして一日が始まる。

前夜は遅くまで、会場のウェスタ川越で打ち合わせ。 座席・照明・音響・人の移動・食事・放映・プログラム・パンフレット・記録・駐車場・消毒・医務室・入退場などなど、すべき事があまりにも多いので少々不安になるが、もう、まな板の鯉の心境。

翌日の本番に備えて私は21時過ぎに引き上げたが、司会担当の野溝さんと小田さんは居残って、前の日に続いて何度も何度もマイクを持って、練習・確認をしていた。映像を担当してくださった、本庄RCの金井さんは、徹夜だそうだ。

地区大会は年度の最重要プログラムのひとつである。 その目的は、「クラブ会員がロータリーの最新情報や地 区内の活動について学び、他のクラブのロータリアンと 交流する事」である。 そして、以下のプログラムが推奨されている。

①RI会長代理の訪問

国際ロータリーの最新情報を伝え、会員を鼓舞する ②地区案件の討議と投票

- ③地区会員が関心を持つような主題の講演
- ④交流・ネットワーキングの時<mark>間、</mark>奉仕活動や

リーダーシップ<mark>に関</mark>する情報<mark>の</mark>提供

3月~4月ごろ、COVID-19の感染恐怖で社会が変わり始め、特に緊急事態宣言や志村けんさんの逝去は我々に衝撃を与え、ロータリーどころじゃない、なんていう声も広がり始めた。例会の中止、地区大会・世界大会の中止、オリンピックの中止など、ほとんどの行事が中止または延期が当たり前の風潮になってきた。そして全国の同期のガバナーは、ほとんどの方が地区大会を来春以降に延期された。

11月の初めに予定していた、当地区もどうすべきか?本当に悩んだ。万が一クラスターにでもなれば、一世ー代の禍根。ガバナーとしての責任はおろか主催の川越RCの顔にも泥を塗る。

District Convention









そんな時、当地区の重鎮である加藤玄静PGの忠告があった。「相原さん、まだ半年先だから今から決める事ないよ。先ずはやる方向で考えて準備しておいて、間際になってダメだったら中止すればいい。是々非々で考えなさい。」

私の腹は決まった。「先ずはやる!」という方向で進む事にした。

5月に入り、感染は幾分減速してきたものの、ウィルスからの健康ダメージよりも、あらゆる自粛・制限により、経済のダメージが顕著になってきた。地域のリーダーと称される我々ロータリアンは経営者や専門職の集合であり、このコロナによる自粛や制限は、計り知れない経済のダメージを我々にもたらした。健全な職業あってのロータリーである。この事実は相当の退会者を招くのではないか?公式訪問はできないかもしれない?多くの不安がガバナーの頭をよぎり始めた。

R | は極めて常識的に、「会員と人々の安心と安全を 最優先する事」をお題目に挙げ、全てがオンラインによ る方法を推奨した。

私も立場上、今までまったく未知であったZOOMによ

る方法を真っ先に取り入れ、ガバナー補佐会議や地区委員長会議などをオンラインで始めた。確かに便利である。 覚えてしまえば非常に簡単でもあった。何回もやった。 しかし同時に、オンラインでは限界があることも感じた。 一番大事な空気感が伝わらないのである。

そうこうしているうちに7月に入り、いよいよ公式訪問が始まった。各クラブの例会は埼玉の北と南ではコロナに対し相当の温度差があった。南の方の第2G第3Gは例会場も確保できない状態で、ガバナー補佐である勝瀬さんと西澤さんは相当ご苦労されたようである。7月8月9月とコロナ禍にありながらも公式訪問は各クラブの実情に合わせて粛々と行われた。ガバナーに対し、全てのクラブが誠心誠意、歓待してくださり恐縮の極み。と同時に、大きなダメージにも拘わらず、ほとんどロータリアンがそのまま会員でいてくれて、このことこそロータリーの魅力故であると確認したのである。

地区にはロータリーを愛し、例会を楽しみにしているロータリアンが沢山おられた。例会が無くてもロータリアン同士いつも一緒。会員は殆どの人が熱い思いを持っていた。 地区大会を期待している無言の空気もなんとなく感じた。

Report

地区大会報告



そして10月に入り、Go To トラベルや自粛・制限の解除。世間はコロナと共存しなければならない、社会は大きなイベントをしても許容する、といった環境の変化・new normalが明らかに訪れたのである。知事も市長も応援して下さった。

「時は今、初雁集う、地区大会」

私の意思は固まった。川越市の感染予防ガイドライン を順守し、必要な事以外は出来る限り短縮。ベクトルは 定まった。

川越ロータリークラブを中心とした実行委員会は忙しくなった。何となく他人事みたいな感じで、全く動きのなかった委員会が一斉に動き出したのである。地区幹事の坂口さんも猛烈に檄を飛ばした。実行委員長の小高さんは、建設会社の社長だが、仕事どころじゃなかったであろう。突然のハプニングが襲う。なんとメインの行事である講演者、三浦雄一郎氏の来場にドクターストップがかかってしまったのである。今更交代は出来ない。そこで北海道の病院とウェスタ川越をオンラインで繋ぎ、ご子息の三浦豪太さんとのリモートによる対談方式に変えた。知事や市長の入場をはじめ、重要なシナリオと音楽は大会会長の立原PGが、全てアレンジしてくれた。各支店長をはじめ、蓼沼さん、野溝さん、吉澤さん、石井さん、八木さん、斎藤さん、その他大勢の人が頑張ってくれたのである。

3日の朝を迎えた。

「おはようございます。」当日は8時に集合だったが7時半には殆どの実行委員が会場に集合していた。入口に設定した2台の赤外線自動体温測定器、私の体温は36.2度を表示していた。平熱。そして全員がまとっていたお揃いの川越RCの紫の欅が、目に沁みる。9時半には各種委員会がはじまり受付を開始。10時30分に本会議が始まった。

会場入口前のホワイエには来賓や各グループ別の長い受付。オクトンの売り場・米山記念奨学生の募金活動・財団の寄付集め、毎度御馴染みの光景だが、みんな何故か頼もしく見える。ガヤガヤして賑やか、全員がマスクをしている事を除いて、全くいつもと同様だ。「おはようございます。今日はありがとうございます。」私はできる限りの会員に挨拶をした。

午前中の本会議が終わり、13時よりいよいよ式典が始まった。壇上から客席を見渡すと、相当な人数が来ていた。約560人。公式訪問の御蔭で知っている顔が多い。中央の奥から一直線に照らされているライトが眩しい。国歌斉唱はオペラ歌手であり、星野高等高校の先生である佐々木憲二さんに独唱をお願いした。迫力満点。

「威風堂々」の曲にのせてRI会長代理の田中久夫様ご夫妻が登場するときには、流石に胸が熱くなった。エイド役の細井PGご夫妻も一緒に登壇し、皆さんにご挨拶。ガバナー挨拶は、何度も練習したが、やはりドジってしまった。知事・市長の挨拶。RI会長代理の講義。三浦

District Convention







雄一郎氏の講演。クラブ紹介。衛星クラブのご披露・各表彰。などなど、全てのプログラムが思いの他順調に進んでいく。若干の遅れとミスはあったが許容範囲内であったと思う。

そしてRI会長代理による大会所感とガバナーの謝辞、そして点鐘。

地区大会は終わった。

多くの方々より「いい地区大会だったね。」と褒められた。またリモートで実況中継を観ていた地区外の仲間からも、非常に評価された。素直に嬉しい。

特に式典第2部の各クラブの会長によるクラブ紹介の 評判が良かった。やはりロータリーは何と言ってもクラブが主役だ。

今更のように、ロータリーは不思議な力を持つと思う。 実行委員の皆さんは地元の経営者であり、大手企業の支 店長である。みな夫々に、部下をもち、指示を担う立場 の人たちである。それが、全員黒子になり縁の下の仕事 を黙々と一生懸命にやってくれた。本当に恐縮する。も ともと優れた能力のある人ばかりなので、夫々の力が結 集されれば、さらに強い力を生む。いろいろな心配事が あったが、全てクリアした。正に初雁が集ってくれたの である。(注:雁は川越市のシンボル鳥、秋に北の空か ら集まってくる)

打ち上げは大いに盛り上がった。

実行委員全員に、新しい友情が芽生えた。それまで、

例会でもあまり話した事もなかった会員同士の距離が一 気に縮まり、地区大会をなんとかやり終えた達成感から、 親近感と共通の連帯感が生まれた。地区大会でかいた汗 は決して忘れないだろう。

第2570地区の皆様、地区大会の経緯を私の感想を含み、報告させて頂きました。

2日分を一日に短縮した為、至らなかった点も 多々あると思いますが、推奨されているプログ ラムは、ほぼ網羅できたと思います。ご協力本 当にありがとうございました。

コロナもまだまだ予断を許しませんが、しばらくは共存しなければなりません。これからロータリーは、新しい道を歩んでいくことになりますが、不変のものは、奉仕の理想と友情です。

新しい扉を開き、地区内外の多くのロータリアン同士が知り合い、友情を深め、人生がいっそう豊かになる事を心より願っております。

2020~21年度 国際ロータリー第2570地区ガバナー相原茂吉